

NLBC 家畜衛生通信 第2号 令和3年7月

執筆担当:茨城牧場 業務課

## 身近な作業も衛生対策に

～茨城牧場 令和3年度第1回クリーン作戦を実施しました！～

茨城牧場では、雌系種豚であるランドレース種や大ヨークシャー種を中心に、約700頭の豚を飼養していますが、疾病の侵入防止の観点から、関係者以外の入場を厳しく制限しているため、一般の方々に内部を解放して見てもらうというような地域交流ができません。

このため、七夕には近くの幼稚園へ場内に自生している笹を寄贈し、秋には地域の商工会祭りに参加して牧場のPRを行うほか、年に2回、クリーン作戦と称した牧場周辺の清掃活動を行い、地域交流や地域貢献を図っています。

今年度第1回のクリーン作戦は、6月25日(金)に実施しましたが、梅雨の合間の晴天に恵まれ、全職員の約半数に当たる17人の職員が、牧場周辺のゴミ拾い、草刈り、河川の清掃に汗を流しました。



(牧場沿いの道路は、周囲に民家が無く抜け道となっているため、ゴミのポイ捨てが目立ちました。)



(近くの河川は、藻や泥が堆積して淀んでいましたが、撤去して水底が見えるようになりました。)

清掃終了後は、空缶やペットボトル、コンビニ弁当の容器などでいっぱいとなったゴミ袋が、幾つもできあがりました。

牧場沿いの道路については、高校生が自転車通学で、近所の方がジョギングや散歩で利用しておられますが、今回の清掃によって、これらの皆さんが気持ちよく利用できるようなるとともに、ゴミの不法投棄の抑制につながったと考えています。

また、クリーン作戦には、これら地域貢献以外にも大きな意味があります。

現在国内で問題となっている豚熱は、イノシシによるウイルス拡散や野鳥・小動物による農場へのウイルス持ち込みが問題となっています。こういったことから、ウイルスの侵入防止には、豚舎エリアに入る際の更衣・シャワー浴、持ち込み物品や車両の消毒、衛生管理区域内への石灰の散布等の日頃の対策も重要ですが、フェンスの強化も非常に重要です。

このため、茨城牧場では、野生動物対策の一環として周囲を二重のフェンスで囲うとともに、月に1回以上の見回りを行い、破損があれば修繕し、ゴミや雑草、時には藪を除去することで、野生動物の侵入機会の低減に努めています。

クリーン作戦のように、多数の人間が活動することは、野生動物に警戒心を持たせることにも役立ちます。

茨城牧場では、以上御紹介したような地域貢献や牧場への病原体侵入防止のため、引き続き、クリーン作戦を続けていきます。

(以上)